

令和 6 年 5 月 20 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00630

研究課題名（和文）多言語音声知覚における脳内リズムと意味理解

研究課題名（英文）Rhythm in the brain for speech comprehension

研究代表者

上田 和夫（UEDA, Kazuo）

九州大学・芸術工学研究院・准教授

研究者番号：80254316

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 34,600,000円

研究成果の概要（和文）：局部時間反転音声，モザイク音声，断続音声，市松音声という4種類の劣化音声を用いて音声の了解度を測定する様々な実験を行った。これらの実験を通じて，因子分析の結果発見された8言語/方言に共通する4周波数帯域が，音声知覚にとって大変重要であることが示された。さらに，二重時間窓モデルを確率加算モデルの中に組み込んで発展させ，市松音声を用いた新しい実験パラダイムを作ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1) 因子分析の結果，得られた4周波数帯域が音声知覚にとって重要な情報チャンネルとして働いていることを示し，(2) 時間のみで断続を行う断続音声刺激と，時間と周波数の両方で交互に断続を行う市松音声刺激を組み合わせるにより，聴覚の時間周波数統合について調べる新しい実験パラダイムを考案してその有効性を示し，(3) 二重時間窓モデルを確率加算モデルに組み込んで発展させたことに学術的意義があると考えている。

研究成果の概要（英文）：This research project focused on the auditory temporal processing of speech, hypothesizing two temporal windows of different lengths, i.e., short and long, work together to extract meanings of running speech of various languages. We employed locally time-reversed speech, mosaic speech (noise-vocoded speech with stepwise spectrotemporal envelopes), interrupted speech, and checkerboard speech (speech interrupted in time and frequency) stimuli. Overall, it is shown that the four frequency bands commonly observed for eight languages/dialects work as independent speech cue channels and that the probability summation model with two temporal windows explains the intelligibility of interrupted mosaic speech and checkerboard speech stimuli.

研究分野：聴覚心理学

キーワード：劣化音声知覚 市松音声 モザイク音声 知覚体制化

## 1 研究開始当初の背景

音声知覚において、音声信号の時間的な変化とその順序とは非常に重要である。たとえば、音声を録音し、時間軸を逆転させて再生すると、意味内容をまったく聴きとることができない。しかし、音声を短い区間に分割し、それぞれの区間ごとに再生方向を逆転させたものをつなげた**局部時間反転音声** (図 1) は、区間長が 40 ms 以下であれば、ほぼ完璧に聴きとることができる。ところが、区間長を長くすれば、聴き取りの正答率を表す明瞭度は急激に低下する。研究代表者らは、海外共同研究者とともに、この明瞭度の低下の仕方には、英語、ドイツ語、中国語、日本語という大幅に異なる言語間においても、**言語による違いが見られない**ことを発見した (Ueda et al., 2017; 図 2)。

このように波形だけを見れば、まったくでたらめな刺激から、ヒトはもとの音声を正確に復元して聴きとり、理解することができる。しかし、このような聴覚系の能力が、どのような仕組みによって支えられているのかについては、よくわかっていない。一方で、このような刺激からもとの音声を復元する仕方を実験参加者が事前に学習していたとは考えがたい。また、区間長を長くしたときの明瞭度の低下の様子は、言語によらず同じ曲線で表される。したがって、局部時間反転音声を知覚するときに用いられる聴覚の仕組みは、どのような入力に対してであれ、実験参加者の母語が違っていても共通するような、**基本的な聴覚機構が自動的に働いた結果**、特定の条件下では音声を聴きとることができたと考えるのが妥当であろう。

音声を含む聴覚情報の脳内における時間的な処理に関しては、40–50 ms 程度の**短い時間窓**で処理を行う系路と、100–200 ms 程度の**長い時間窓**で処理を行う系路との二つの処理系が存在し、これらがある程度、**並行して働く**との見方がある (たとえば、Giraud and Poeppel, 2012)。通常の音声では、ひとまとまりの音として意識される**音節**の時間長は 250 ms を超えない程度であるのに対して、音韻論上の最小単位である**音素**の時間長は 25–80 ms と言われている。このことと上記の現象との関係を考えて、局部時間反転音声の区間長が 50 ms を超えない条件では、長い時間窓において常に二つ以上の区間にまたがった処理 (音節知覚) を行うことができ、その処理結果に基づいて、別の系路で行われた短い時間窓の処理結果 (音素知覚の手がかり) を修正し、全体としてつじつまが合うように音声を知覚することができるのに対して、区間長が 100 ms を超えた条件になると、長い時間窓で処理された結果もまったくわけのわからないものになってしまい、短い時間窓の処理結果を修正することができなくなってしまうと考えられる (図 3)。

これらの先行研究から、我々が局部時間反転音声から、もとの音声を復元することができるのは、「**我々の脳が、大まかな (長い時間窓で処理された) 情報から、より細かい情報を推測し、細かい (短**

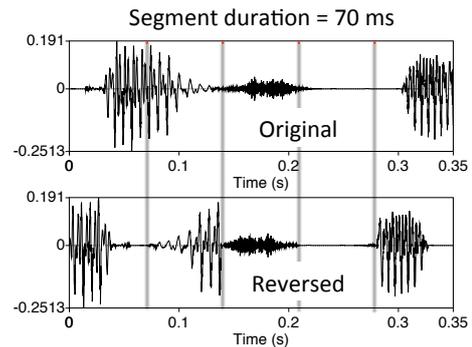


図 1. 局部時間反転音声。上段は原音声、下段は区間長 70 ms で局部時間反転した波形、縦線は区間境界。

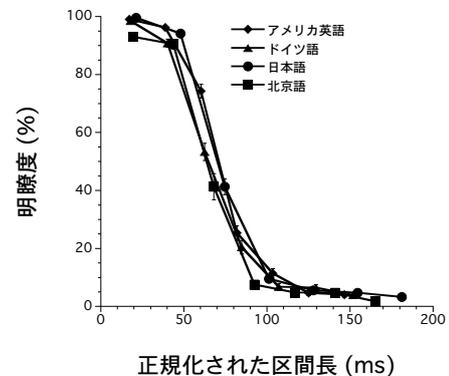


図 2. 局部時間反転音声の話速を正規化した明瞭度曲線。曲線の形は言語によらない (Ueda et al., 2017)。



図 3. 二重時間窓仮説の模式図。

い時間窓で処理された) 情報との照合を行いつつ、全体のつじつまが合うように解釈している」ためではないかと考えられる。この仮説(二重時間窓仮説)を検証することにより、言語間に共通する音声知覚のしくみを探ることが、本研究の核心をなす「問い」である。

その上で、音声知覚が成立するために必要な、もう一つの要因についても考えねばならない。それは、音声信号に含まれる周波数スペクトルの分解精度が充分であるかどうかである。研究代表者らは、英、米、仏、独、西、北京、広東、日の8言語/方言の音声を用い、聴覚末梢の周波数分解精度を反映させた臨界帯域フィルターを通して得た出力から、スペクトルのパワー変動について因子分析を行った結果、これらの言語/方言に共通する3ないし4因子および4周波数帯域(境界周波数:540, 1700, 3300 Hz)を得た(Ueda and Nakajima, 2017, 図4)。これらの因子または周波数帯域は、音声知覚に最低限必要であることが知覚実験により示されている(Ellermeier et al., 2015; Kishida et al., 2016; Ueda et al., 2018)。さらに、これらの因子により、英語の全ての音素が、音声学上妥当とされる鳴音性尺度上に整然と配列されることもわかっている(Nakajima et al., 2017)。

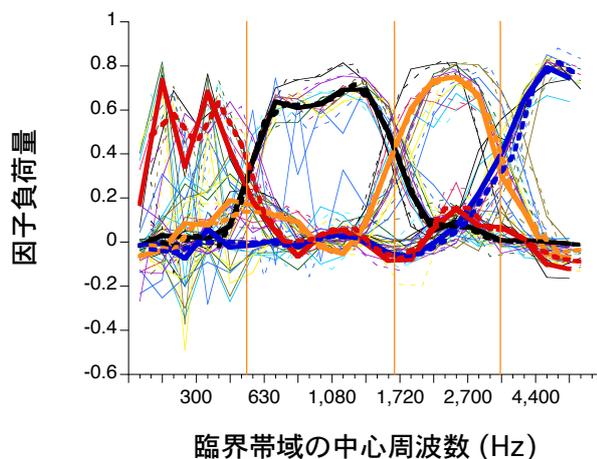


図4. 臨界帯域フィルターを通した音声のパワー変動の因子分析から得られた、8言語/方言に共通する4因子および4周波数帯域。太い折れ線は8言語/方言をまとめた分析から得られた4因子で、細い折れ線は言語別の分析から得られた因子を表す。縦線は、多言語に共通する4周波数帯域の境界を示す(Ueda and Nakajima, 2017)。

## 2 研究の目的

「我々の脳は、長さの異なる二つの時間窓を用い、大まかな処理結果から細かい情報の推測、照合を行い、音声の意味を解釈している」という上記の仮説(二重時間窓仮説)を検証し、言語間に共通する音声の知覚と意味理解のしくみを探ることを目的とした。

## 3 研究の方法

上記のような方針に基づいて局部時間反転音声やモザイク音声(Nakajima et al., 2018)などを用いた研究を実施した。局部時間反転音声に関しては、音声をいくつかの帯域に分け、帯域ごとに局部時間反転を行うことにより、音声全体の了解度が劣化される周波数帯域によってどのような影響を受けるのかを調べた。モザイク音声に関しては、モザイク区間長を変化させて了解度を調べる実験を日本語および中国語で行い、結果を比較した。さらに、モザイク化した区間の順序を一定の範囲内でランダムに入れ換えた、ランダム化モザイク音声を用いた実験を日本語および中国語で実施した。また、モザイク音声を断続したうえで、残ったモザイク区間を延長することにより空白を埋める、断続伸張モザイク音声を作成、了解度を調べた。さらに、時間周波数平面上で周波数帯域ごとに互い違いに文音声を断続し、了解度を測定した研究がこれまで行われていないことに気づき、市松音声(図5)を用いた研究を開始した。このような刺激は、区間長の等しい断続音声と原音声の半分のみが呈示される点は同じであるが、周波数帯域数および区間長の組み合わせを変えることで時間周波数平面上に点在する音声情報を聴覚がどのように統合しているのかを調べることができる。

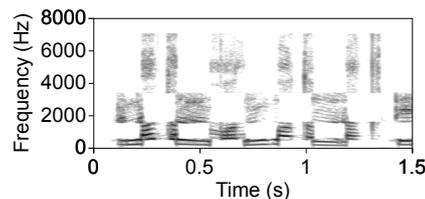


図5. 4帯域市松音声刺激のスペクトログラム例。Ueda et al. (2023)による。

## 4 研究成果

局部時間反転音声を用いた研究では、Ueda and Nakajima (2017) が見いだした 8 言語／方言に共通する 4 周波数帯域に音声进行分割し、そのうち一つの帯域のみを除いて局部時間反転を行う条件、および一つの帯域のみを局部時間反転する条件の両方で実験を実施したところ、4 帯域のうち下から二番目の周波数帯域が劣化されずに保存されている場合がもっとも了解度が高く、逆にその帯域だけが劣化された場合は了解度の低下が最も大きくなった (Ueda and Matsuo, 2021)。また、局部時間反転音声を断続し、空白部分に雑音を入れて雑音のレベルを変化させたところ、強い雑音を入れた場合には了解度が向上した (Ueda and Ciocca, 2021)。雑音自体には音声知覚に役立つ情報は何ら含まれていないが、音声の連続性が向上することによって了解度も向上すると考えられる。

モザイク音声を用いた研究では、モザイク区間長は 40 ミリ秒までは区間長を延長しても了解度の低下が見られないが、それ以上の区間長にすると急激に了解度が低下すること、また、この様子は日本語だけでなく、中国語でも同様に見られることを示した (Eguchi et al., 2022)。日本語と中国語のランダムモザイク音声を用いた実験では、モザイク区間のランダム化を行う区間と等しいモザイク区間長のモザイク音声の了解度よりも、ランダムモザイク音声の了解度は常に上回ることを、この結果は日本語と中国語に共通してみられることが明らかになった (江口ほか, 2019; 唐ほか, 2022)。このことは、一定の範囲内でランダムに順序を入れ換えた情報を聴覚がうまく利用できることを示している。また断続伸張モザイク音声を用いた研究では、断続後のモザイク区間伸長によって了解度が向上する条件と低下する条件の両方を発見した (Ueda et al., 2022, 2024)。この了解度の変化は Shafiro et al. (2018) の確率加算モデルに二重時間窓を組み込んだモデルによって説明できる。

市松音声を用いた研究では、2, 4 および 8 帯域で区間長 160 ms のときに了解度が最低となること、2, 4 帯域条件の了解度は断続音声条件の了解度を常に下回ること、8 帯域条件の了解度は 4 帯域条件とは対照的に高く、断続音声の了解度を常に上回ること、因子分析の結果に基づいた帯域分割の方法が、音声知覚の手がかりを明確に分割することなどがわかった (図 6) (Ueda et al., 2021, 2023)。断続音声および市松音声について、1 話者の場合と 2 話者の断続音声または市松音声を組み合わせてどちらか一方の話者のみに実験参加者の注意を向けるよう指示すると、刺激の種類にかかわらず 1 話者の条件と比べて比率で 15% 程度の了解度低下が生じること、断続音声と市松音声の間の了解度曲線の違いは 2 話者でも保たれることを見いだした (Hasegawa et al., under review)。さらに、市松音声の無音区画を雑音で置換し (市松音声と逆位相の市松雑音で無音区画を充填)、雑音のレベルを操作して了解度への影響を調べた実験結果について、刺激の変調指数スペクトルを調べ、投稿準備中である。

全体として、**因子分析の結果発見された 8 言語／方言に共通する 4 周波数帯域が、音声知覚にとって大変重要であることが示された。**また、**二重時間窓モデルを確率加算モデルの中に組み込んで発展させ、市松音声を用いた新しい実験パラダイムを作ることができた**と考えている。

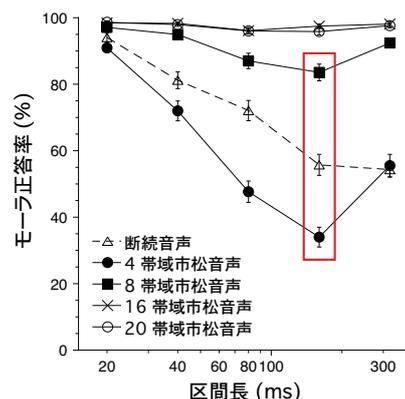


図 6. 断続音声および市松音声の了解度。縦軸におけるモーラは日本語の単位で、音節よりも小さい。断続音声の正答率 (了解度) は区間長とともに単調に低下し、50% に近づくのに対し、4 および 8 帯域の市松音声では区間長 160 ミリ秒を谷底 (赤枠) とする U 字型の了解度曲線が得られる。エラーバーは標準誤差。Ueda et al. (2023) による。

## 文献

Eguchi, H., Ueda, K., Remijn, G. B., Nakajima, Y., & Takeichi, H. (2022). The common limitations in auditory temporal processing for Mandarin Chinese and Japanese. *Scientific Reports*, 12(1), 3002.

江口輝, 上田和夫, Remijn, G. B., 中島祥好 (2019). 局部時間ランダムモザイク音声. 日本音響学会聴覚研究会資料, 49, H-2019-106.

- Ellermeier, W., Kattner, F., Ueda, K., Doumoto, K., & Nakajima, Y. (2015). Memory disruption by irrelevant noise-vocoded speech: Effects of native language and the number of frequency bands. *Journal of the Acoustical Society of America*, **138**, 1561–1569.
- Hasegawa, J., Ueda, K., Takeichi, H., Remijn, G. B., & Hasuo, E. (under review). Intelligibility of interrupted and checkerboard speech stimuli with two talkers: Perceptual separation and integration. *Attention, Perception, & Psychophysics*.
- Giraud, A.-L. & Poeppel, D. (2012). “Cortical oscillations and speech processing: Emerging computational principles and operations,” *Nature Neuroscience*, **15**, 511–517.
- Grange, J., & Culling, J. (2018). The factor analysis of speech: Limitations and opportunities for cochlear implants. *Acta Acustica united with Acustica*, **104**, 835–838.
- Kishida, T., Nakajima, Y., Ueda, K., & Remijn, G. B. (2016). Three factors are critical in order to synthesize intelligible noise-vocoded Japanese speech. *Frontiers in Psychology*, **7**(517).
- Matsuo, I., Ueda, K., & Nakajima, Y. (2020). Intelligibility of chimeric locally time-reversed speech. *The Journal of the Acoustical Society of America*, **147**(6), EL523-EL528.
- Nakajima, Y., Matsuda, M., Ueda, K., & Remijn, G. B. (2018). Temporal resolution needed for auditory communication: Measurement with mosaic speech. *Frontiers in Human Neuroscience*, **12**(149). doi:10.3389/fnhum.2018.00149
- Nakajima, Y., Ueda, K., Fujimaru, S., Motomura, H., & Ohsaka, Y. (2017). English phonology and an acoustic language universal. *Scientific Reports*, **7**(46049).
- Shafiro, V., Fogerty, D., Smith, K., & Sheft, S. (2018). Perceptual organization of interrupted speech and text. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research*, **61**(10), 2578-2588.
- 唐挺山, 上田和夫, Remijn, G. B., 竹市博臣 (2022). 時間順序をランダム化したモザイク音声の了解度：中国語と日本語の比較. 日本音響学会音声コミュニケーション研究会資料, **2**, SC-2022-9.
- Ueda, K., Araki, T., & Nakajima, Y. (2018). Frequency specificity of amplitude envelope patterns in noise-vocoded speech. *Hearing Research*, **367**, 169-181.
- Ueda, K., & Ciocca, V. (2021). Phonemic restoration of interrupted locally time-reversed speech: Effects of segment duration and noise levels. *Attention, Perception, & Psychophysics*, **83**(5), 1928-1934.
- Ueda, K., Doan, L. L. D., & Takeichi, H. (2023). Checkerboard and interrupted speech: Intelligibility contrasts related to factor-analysis-based frequency bands. *The Journal of the Acoustical Society of America*, **154**(4), 2010-2020.
- Ueda, K., Hashimoto, M., Takeichi, H., & Wakamiya, K. (2024). Interrupted mosaic speech revisited: Gain and loss in intelligibility by stretching. *The Journal of the Acoustical Society of America*, **155**(3), 1767-1779.
- Ueda, K., Kawakami, R., & Takeichi, H. (2021). Checkerboard speech vs interrupted speech: Effects of spectrotemporal segmentation on intelligibility. *JASA Express Letters*, **1**(7), 075204.
- Ueda, K., & Matsuo, I. (2021). Intelligibility of chimeric locally time-reversed speech: Relative contribution of four frequency bands. *JASA Express Letters*, **1**(6), 065201.
- Ueda, K. & Nakajima, Y. (2017). An acoustic key to eight languages/dialects: Factor analyses of critical-band-filtered speech. *Scientific Reports*, **7**(42468).
- Ueda, K., Nakajima, Y., Ellermeier, W., & Kattner, F. (2017). Intelligibility of locally time-reversed speech: A multilingual comparison. *Scientific Reports*, **7**(1782).
- Ueda, K., Nakajima, Y., Kattner, F., & Ellermeier, W. (2019). Irrelevant speech effects with locally time-reversed speech: Native vs non-native language. *The Journal of the Acoustical Society of America*, **145**(6), 3686-3694.
- Ueda, K., Takeichi, H., & Wakamiya, K. (2022). Auditory grouping is necessary to understand interrupted mosaic speech stimuli. *The Journal of the Acoustical Society of America*, **152**(2), 970-980.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計61件（うち査読付論文 53件 / うち国際共著 15件 / うちオープンアクセス 45件）

1. 著者名 Ueda, K., Hashimoto, M., Takeichi, H., and Wakamiya, K.	4. 巻 155
2. 論文標題 Interrupted mosaic speech revisited: Gain and loss in intelligibility by stretching.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The Journal of the Acoustical Society of America	6. 最初と最後の頁 1767-1779
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/10.0025132	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Remijn Gerard B., Teramachi Masaki, Ueda Kazuo	4. 巻 -
2. 論文標題 Auditory Ensemble Perception (Summary Statistics) for Music Scale Tones by Listeners with and without Absolute Pitch	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Auditory Perception & Cognition	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/25742442.2024.2310460	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ueda, K., Doan, L. L. D., and Takeichi, H.	4. 巻 154
2. 論文標題 Checkerboard and interrupted speech: Intelligibility contrasts related to factor-analysis-based frequency bands	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Journal of the Acoustical Society of America	6. 最初と最後の頁 2010-2020
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/10.0021165	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Nakajima, Y., Remijn, G.B.	4. 巻 14
2. 論文標題 At what level is the gap transfer illusion illusory?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 i-Perception	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/20416695231194203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 蓮尾 絵美	4. 巻 39
2. 論文標題 リズム知覚に拍が及ぼす影響：自身の研究紹介とGEIKO EXPO 2023 での発表の概要	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 芸術工学研究	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/7170822	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Osaki T, Duenki T, Chow SYA, Ikegami Y, Beaubois R, Levi T, Nakagawa-Tamagawa N, Hirano Y, Ikeuchi Y.	4. 巻 15
2. 論文標題 Complex activity and short-term plasticity of human cerebral organoids reciprocally connected with Axons	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Nat. Commun.	6. 最初と最後の頁 2945
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-024-46787-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakhnikian Alexander, Oribe Naoya, Hirano Shogo, Fujishima Yuki, Hirano Yoji, Nestor Paul G., Francis Grace A., Levin Margaret, Spencer Kevin M.	4. 巻 59
2. 論文標題 Spectral decomposition of resting state electroencephalogram reveals unique theta/alpha activity in schizophrenia	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 European Journal of Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1946 ~ 1960
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ejn.16244	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitajima K, Tamura S, Sasabayashi D, Nakajima S, Iwata Y, Ueno F, Takai Y, Takahashi J, Caravaggio F, Mar W, Torres-Carmona E, Noda Y, Gerretsen P, Luca V, Mimura M, Hirano S, Nakao T, Onitsuka T, Remington G, Graff-Guerrero A, Hirano Y	4. 巻 77
2. 論文標題 Decreased cortical gyrification and surface area in the left medial parietal cortex in patients with treatment-resistant and ultratreatment-resistant schizophrenia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin. Neurosci.	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13482	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Okada N, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Matsumoto J,..., Hirano Y,..., Hashimoto R.	4. 巻 28
2. 論文標題 Subcortical volumetric alterations in four major psychiatric disorders: a mega-analysis study of 5604 subjects and a volumetric data-driven approach for classification	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Molecular Psychiatry	6. 最初と最後の頁 5206 ~ 5216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41380-023-02141-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Spencer KM, Nakhnikian A, Hirano Y, Levin M.	4. 巻 17
2. 論文標題 The contribution of gamma bursting to spontaneous gamma activity in schizophrenia.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Front. Hum. Neurosci.	6. 最初と最後の頁 1130897
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Roach BJ, Hirano Y, Ford JM, Spencer KM, Mathalon DH	4. 巻 54
2. 論文標題 Phase Delay of the 40 Hz Auditory Steady-State Response Localizes to Left Auditory Cortex in Schizophrenia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Clin. EEG Neurosci.	6. 最初と最後の頁 370-378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/155005942211308	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takai Yoshifumi, Tamura Shunsuke, Hoaki Nobuhiko, Kitajima Kazutoshi, Nakamura Itta, Hirano Shogo, Ueno Takefumi, Nakao Tomohiro, Onitsuka Toshiaki, Hirano Yoji	4. 巻 59
2. 論文標題 Aberrant thalamocortical connectivity and shifts between the resting state and task state in patients with schizophrenia	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 European Journal of Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1961 ~ 1976
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ejn.16298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirano Yoji, Nakamura Itta, Tamura Shunsuke	4. 巻 59
2. 論文標題 Abnormal connectivity and activation during audiovisual speech perception in schizophrenia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 European Journal of Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1918 ~ 1932
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ejn.16183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakanishi S, Tamura S, Hirano S, Takahashi J, Kitajima K, Takai Y, Togao O, Nakao T, Onitsuka T, Hirano Y	4. 巻 17
2. 論文標題 Abnormal phase entrainment of low- and high-gamma-band auditory steady-state responses in schizophrenia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Front. Neurosci.	6. 最初と最後の頁 1277733
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnins.2023.1277733	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyahara Y, Funahashi H, Haruta-Tsukamoto A, Kogoh Y, Kanemaru-Kawazoe A, Hirano Y, Nishimori T, Ishida Y.	4. 巻 46
2. 論文標題 Differential contribution of 5-HT4, 5-HT5, and 5-HT6 receptors to acute pruriceptive processing induced by chloroquine and histamine in mice	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Biol. Pharm. Bull.	6. 最初と最後の頁 1601-1608
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b23-00445	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Haruta-Tsukamoto A, Kanemaru-Kawazoe A, Kogoh Y, Miyahara Y, Funahashi H, Hirano Y, Nishimori T, Ishida Y.	4. 巻 957
2. 論文標題 Role of kainate receptors in pruriceptive processing in the mouse spinal cord	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Eur. J. Pharmacol.	6. 最初と最後の頁 175998
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ejphar.2023.1759	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamura S, Hirano Y	4. 巻 33
2. 論文標題 Cortical representation of speech temporal information through high gamma-band activity and its temporal modulation	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Cereb. Cortex.	6. 最初と最後の頁 8773-8782
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cercor/bhad158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Onitsuka T, Okada T, Hasegawa N, Tsuboi T, Iga JI, ..., Hirano Y, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R	4. 巻 43
2. 論文標題 Combination Psychotropic Use for Schizophrenia with Long-Acting Injectable Antipsychotics and Oral Antipsychotics: A Nationwide Real-World Study in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J. Clin. Psychopharmacol.	6. 最初と最後の頁 365-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/jcp.0000000000001704	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, ..., Hirano Y, ..., Hashimoto R	4. 巻 28
2. 論文標題 Cerebral cortical structural alteration patterns across four major psychiatric disorders in 5549 individuals	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Molecular Psychiatry	6. 最初と最後の頁 4915 ~ 4923
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41380-023-02224-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Eiro T, Miyazaki T, Hatano M, Nakajima W, ..., Hirano Y, Kimura Y, Matsumoto R, Ikeda A, Takahashi T	4. 巻 4
2. 論文標題 Dynamics of AMPA receptors regulate epileptogenesis in patients with epilepsy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Cell Rep. Med.	6. 最初と最後の頁 101020
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.xcrm.2023.101020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogyu K, Matsushita K, Honda S, ..., Hirano Y, Mimura M, Nakajima S, Noda Y	4. 巻 252
2. 論文標題 Decrease in gamma-band auditory steady-state response in patients with treatment-resistant schizophrenia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Schizophr. Res.	6. 最初と最後の頁 129-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2023.01.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuboi T, Takaesu Y, Hasegawa N, ..., Hirano Y, ..., Hashimoto R.	4. 巻 77
2. 論文標題 Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score-matched analysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin. Neurosci.	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13489	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Arai N, Miyazaki T, Nakajima S, Okamoto S, Moriyama S, Niinomi K, Takayama K, Kato J, Nakamura I, Hirano Y, Kitago M, Kitagawa Y, Takahashi T, Shimizu H, Mimura M, Noda Y	4. 巻 13
2. 論文標題 The Association between Electroencephalography with Auditory Steady-State Response and Postoperative Delirium	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J. Pers. Med.	6. 最初と最後の頁 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/jpm13010035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurue A, Funahashi H, Tsurue K, Kawano M, Ishida Y, Hirano Y	4. 巻 43
2. 論文標題 A case study of the utilization of clozapine treatment for treatment-resistant schizophrenia associated with 22q11.2 deletion syndrome	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacol. Rep.	6. 最初と最後の頁 272-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12333	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 信川創, 平野羊嗣, 田村俊介, 岡本有司, 牛場潤一, 岩間清太郎, 合原一幸	4. 巻 -
2. 論文標題 非線形科学の脳神経解析への応用	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 実験医学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋努, 高柳陽一郎, 大井一高, 小池進介, 平野羊嗣, 三浦健一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 バイオマーカーによる精神科診断の意義と課題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 精神科診断学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三笠良, 平野羊嗣	4. 巻 34
2. 論文標題 精神疾患の神経生理学的知見 統合失調症の神経振動異常を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本生物学的精神医学会誌	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野羊嗣	4. 巻 9
2. 論文標題 統合失調症患者に対するメタ認知トレーニング	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神科臨床Legato	6. 最初と最後の頁 37-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 光藤崇子, 平野羊嗣, 鬼塚俊明	4. 巻 41
2. 論文標題 統合失調症における幻聴と聴覚皮質の活動について 幻聴の発生機序と幻聴緩和治療の可能性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Clinical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 841-846
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wolf A, Tripanpitak K, Umeda S and Otake-Matsuura M	4. 巻 14
2. 論文標題 Eye-tracking paradigms for the assessment of mild cognitive impairment: a systematic review	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Front. Psychol.	6. 最初と最後の頁 1197567
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2023.1197567	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wolf A, Ravienna K and Salobar-Garcia E	4. 巻 15
2. 論文標題 Editorial: Early indicators of cognitive decline, Alzheimer's disease, and related dementias captured by neurophysiological tools	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Front. Psychol.	6. 最初と最後の頁 1393724
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2024.1393724	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ueda Kazuo, Takeichi Hiroshige, Wakamiya Kohei	4. 巻 152
2. 論文標題 Auditory grouping is necessary to understand interrupted mosaic speech stimuli	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of the Acoustical Society of America	6. 最初と最後の頁 970 ~ 980
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/10.0013425	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima Yoshitaka, Remijn Gerard B., Kamimura Yuki, Kanafuka Kyoko	4. 巻 422
2. 論文標題 Roles of temporal proximity between sound edges in the perceptual organization of veridical and illusory auditory events	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hearing Research	6. 最初と最後の頁 108546 ~ 108546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.heares.2022.108546	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Egashira Yuka, Kaga Yoshimi, Gunji Atsuko, Kita Yosuke, Kimura Motohiro, Hironaga Naruhito, Takeichi Hiroshige, Hayashi Sayuri, Kaneko Yuu, Takahashi Hidetoshi, Hanakawa Takashi, Okada Takashi, Inagaki Masumi	4. 巻 16
2. 論文標題 Detection of deviance in Japanese kanji compound words	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2022.913945	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueda Kazuo, Ciocca Valter	4. 巻 83
2. 論文標題 Phonemic restoration of interrupted locally time-reversed speech	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Attention, Perception, & Psychophysics	6. 最初と最後の頁 1928 ~ 1934
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3758/s13414-021-02292-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wolf Alexandra, Ueda Kazuo	4. 巻 12
2. 論文標題 Contribution of Eye-Tracking to Study Cognitive Impairments Among Clinical Populations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.590986	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueda Kazuo, Matsuo Ikuo	4. 巻 1
2. 論文標題 Intelligibility of chimeric locally time-reversed speech: Relative contribution of four frequency bands	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JASA Express Letters	6. 最初と最後の頁 065201 ~ 065201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/10.0005439	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueda Kazuo, Kawakami Riina, Takeichi Hiroshige	4. 巻 1
2. 論文標題 Checkerboard speech vs interrupted speech: Effects of spectrotemporal segmentation on intelligibility	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JASA Express Letters	6. 最初と最後の頁 075204 ~ 075204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/10.0005600	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Eguchi Hikaru, Ueda Kazuo, Remijn Gerard B., Nakajima Yoshitaka, Takeichi Hiroshige	4. 巻 12
2. 論文標題 The common limitations in auditory temporal processing for Mandarin Chinese and Japanese	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-06925-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuo Ikuo, Ueda Kazuo, and Nakajima Yoshitaka	4. 巻 147
2. 論文標題 Intelligibility of chimeric locally time-reversed speech	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of the Acoustical Society of America	6. 最初と最後の頁 EL523 ~ EL528
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/10.0001414	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Ueda, and Valter Ciocca	4. 巻 -
2. 論文標題 Phonemic restoration of interrupted locally time-reversed speech: Effects of segment duration and noise levels	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Attention, Perception, & Psychophysics	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3758/s13414-021-02292-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wolf Alexandra, Ueda Kazuo, Hirano Yoji	4. 巻 75
2. 論文標題 Recent updates of eye movement abnormalities in patients with schizophrenia: A scoping review	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 82 ~ 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13188	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Zhang Yixin, Nakajima Yoshitaka, Ueda Kazuo, Kishida Takuya, Remijn Gerard B.	4. 巻 10
2. 論文標題 Comparison of Multivariate Analysis Methods as Applied to English Speech	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Applied Sciences	6. 最初と最後の頁 7076 ~ 7076
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/app10207076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Santi, Nakajima Yoshitaka, Ueda Kazuo, Remijn Gerard B.	4. 巻 10
2. 論文標題 Intelligibility of English Mosaic Speech: Comparison between Native and Non-Native Speakers of English	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Applied Sciences	6. 最初と最後の頁 6920 ~ 6920
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/app10196920	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Wataru, Hiyama Atsushi, Ichinohe Noritaka, Yamashita Wakayo, Seno Takeharu, Takeichi Hiroshige	4. 巻 37
2. 論文標題 Visualization by P-flow: gradient- and feature-based optical flow and vector fields extracted from image analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Optical Society of America A	6. 最初と最後の頁 1958 ~ 1958
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1364/JOSAA.398677	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirano Yoji, Tamura Shunsuke	4. 巻 34
2. 論文標題 Recent findings on neurofeedback training for auditory hallucinations in schizophrenia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Opinion in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 245 ~ 252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/YCO.0000000000000693	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirano Shogo, Spencer Kevin M., Onitsuka Toshiaki, Hirano Yoji	4. 巻 51
2. 論文標題 Language-Related Neurophysiological Deficits in Schizophrenia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical EEG and Neuroscience	6. 最初と最後の頁 222 ~ 233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1550059419886686	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirano Yoji, Nakamura Itta, Tamura Shunsuke, Onitsuka Toshiaki	4. 巻 11
2. 論文標題 Long-Term Test-Retest Reliability of Auditory Gamma Oscillations Between Different Clinical EEG Systems	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2020.00876	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hironaga Naruhito, Takei Yuichi, Mitsudo Takako, Kimura Takahiro, Hirano Yoji	4. 巻 11
2. 論文標題 Prospects for Future Methodological Development and Application of Magnetoencephalography Devices in Psychiatry	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2020.00863	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueda Kazuo, Nakajima Yoshitaka, Kattner Florian, Ellermeier Wolfgang	4. 巻 145
2. 論文標題 Irrelevant speech effects with locally time-reversed speech: Native vs non-native language	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of the Acoustical Society of America	6. 最初と最後の頁 3686 ~ 3694
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/1.5112774	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirano Y, Oribe N, Onitsuka T, Kanba S, Nestor PG, Hosokawa T, Levin M, Shenton ME, McCarley RW, Spencer KM.	4. 巻 -
2. 論文標題 Auditory Cortex Volume and Gamma Oscillation Abnormalities in Schizophrenia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clin EEG Neurosci.	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/155005942014201	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirakawa N, Kuga H, Hirano Y, Sato J, Oribe N, Nakamura I, Hirano S, Ueno T, Oda Y, Togao O, Hiwatashi A, Honda H, Kanba S, Onitsuka T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Neuroanatomical substrate of chronic psychosis in epilepsy: an MRI study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Brain Imaging Behav.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11682-019-00044-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirano Shogo, Spencer Kevin M., Onitsuka Toshiaki, Hirano Yoji	4. 巻 -
2. 論文標題 Language-Related Neurophysiological Deficits in Schizophrenia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clinical EEG and Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1550059419886686	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nemoto Kiyotaka, Shimokawa Tetsuya, Nemoto K, Shimokawa T, Fukunaga M, Yamashita F, Tamura M, Yamamori H, Yasuda Y, Azechi H, Kudo N, Watanabe Y, Kido M, Takahashi T, Koike S, Okada N, Hirano Y, Onitsuka T, Yamasue H, Suzuki M, Kasai K, Hashimoto R, Arai T	4. 巻 74
2. 論文標題 Differentiation of schizophrenia using structural MRI with consideration of scanner differences: A real world multisite study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 56 ~ 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12934	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Onitsuka Toshiaki, Spencer Kevin M., Nakamura Itta, Hirano Yoji, Hirano Shogo, McCarley Robert W., Shenton Martha E., Niznikiewicz Margaret A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Altered P3a Modulations to Emotional Faces in Male Patients With Chronic Schizophrenia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical EEG and Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1550059419896723	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Oribe Naoya, Hirano Yoji, del Re Elisabetta, Seidman Larry J., Meshulam-Gately Raquelle I., Woodberry Kristen A., Wojcik Joanne D., Ueno Takefumi, Kanba Shigenobu, Onitsuka Toshiaki, Shenton Martha E., Goldstein Jill M., Niznikiewicz Margaret A., McCarley Robert W., Spencer Kevin M.	4. 巻 208
2. 論文標題 Progressive reduction of auditory evoked gamma in first episode schizophrenia but not clinical high risk individuals	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research	6. 最初と最後の頁 145 ~ 152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2019.03.025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 平野羊嗣	4. 巻 270
2. 論文標題 統合失調症の神経生理学的な知見 (Neurophysiological findings in patients with schizophrenia)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 776-783
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野羊嗣, 王百慧, 謝明憲, 黄宗正, 黒木俊秀, 神庭重信	4. 巻 121
2. 論文標題 台湾精神医学の発展と日本の関わり: 台大醫院精神部五十年紀要・日治時代精神病学史より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 356-365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼塚俊明, 中村一太, 平野昭吾, 平野羊嗣	4. 巻 30
2. 論文標題 統合失調症の幻聴の神経基盤 - 脳構造・脳機能研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本生物学的精神医学会誌	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cabral Joao Paulo, Remijn Gerard Bastiaan	4. 巻 78
2. 論文標題 Auditory icons: Design and physical characteristics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Applied Ergonomics	6. 最初と最後の頁 224 ~ 239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.apergo.2019.02.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Remijn, G.B., Fuyuno, M., Blanco Cortes, L., Ono, A.	4. 巻 5
2. 論文標題 English as a medium of instruction at a Japanese university: Preferences and opinions of domestic and international students	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of KIKAN Education	6. 最初と最後の頁 75-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計93件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 49件)

1. 発表者名 棟近光太郎, 上田和夫, 竹市博臣, 蓮尾絵美, Gerard B. Remijn
2. 発表標題 市松音声の市松雑音マスキング: 変調指数スペクトルによる分析
3. 学会等名 日本音響学会第 151 回 (2024 年春季) 研究発表会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Kazuo Ueda, Linh Le Dieu Doan, and Hiroshige Takeichi
2. 発表標題 Checkerboard and interrupted speech: Critical intelligibility differences observed in factor-analysis-based checkerboard speech stimuli
3. 学会等名 Acoustics 2023 Sydney, the 185th Meeting of the Acoustical Society of America (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuo Ueda, Masashi Hashimoto, Hiroshige Takeichi, and Kohei Wakamiya
2. 発表標題 Interrupted mosaic speech revisited: Gain and loss of stretching on intelligibility
3. 学会等名 Acoustics 2023 Sydney, the 185th Meeting of the Acoustical Society of America (国際学会)
4. 発表年 2023年

1 . 発表者名 Jun Hasegawa, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, Gerard B. Remijn, and Emi Hasuo
2 . 発表標題 Selective Listening in Checkerboard and Interrupted Speech Stimuli with Two Talkers
3 . 学会等名 Acoustics 2023 Sydney, the 185th Meeting of the Acoustical Society of America ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Kazuo Ueda, Masashi Hashimoto, Hiroshige Takeichi, and Kohei Wakamiya
2 . 発表標題 Interrupted mosaic speech revisited: A curious biphasic effect of stretching on intelligibility
3 . 学会等名 Fechner Day 2023: The 39th Annual Meeting for the International Society for Psychophysics ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Koutaro Munechika, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, and Gerard B. Remijn
2 . 発表標題 Phonemic restoration and energetic masking with checkerboard speech stimuli: Effects of noise-filling on intelligibility
3 . 学会等名 Fechner Day 2023: The 39th Annual Meeting for the International Society for Psychophysics ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Alexandra Wolf, Shunsuke Tamura, Takako Mitsudo, Kazuo Ueda, and Yoji Hirano
2 . 発表標題 Altered information processing strategy among patients with schizophrenia in a liking task: an eye movement study
3 . 学会等名 Fechner Day 2023: The 39th Annual Meeting for the International Society for Psychophysics ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiroshige Takeichi, Kazuo Ueda, Takako Mitsudo, Alexandra Wolf, and Yoji Hirano
2. 発表標題 Magnetoencephalography of checkerboard speech processing
3. 学会等名 Fechner Day 2023: The 39th Annual Meeting for the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuo Ueda, Masashi Hashimoto, Hiroshige Takeichi, and Kohei Wakamiya
2. 発表標題 Interrupted mosaic speech revisited: A biphasic effect of stretching on intelligibility
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jun Hasegawa, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, Gerard B. Remijn, and Emi Hasuo
2. 発表標題 Selective Listening in Checkerboard and Interrupted Japanese Speech Stimuli with Two Talkers
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiroshige Takeichi, Kazuo Ueda, Takako Mitsudo, Alexandra Wolf, Yoji Hirano
2. 発表標題 Magnetoencephalography elucidates mosaic speech processing
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gerard B. Remijn, Masaki Teramachi, Ryuji Takahashi, Kazuo Ueda
2. 発表標題 Summary statistics in hearing: Average pitch estimation from a sequence of tones by listeners with and without absolute pitch
3. 学会等名 ICMPC17-APSCOM7 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Geng-Yan JHANG, Kazuo UEDA, Hiroshige TAKEICHI, Gerard B. REMIJN
2. 発表標題 The rivalry between fundamental frequency separation and switching frequency bands for auditory stream segregation in harmonic complex tone sequences
3. 学会等名 ICMPC17-APSCOM7 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jun Hasegawa, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, Gerard B. Remijn, and Emi Hasuo
2. 発表標題 Selective listening in checkerboard and interrupted speech stimuli with two talkers
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nakajima, Y., Remijn, G.B., Kamimura, Y., Kanafuka, K.
2. 発表標題 Temporal proximity between sound edges is vital for the gap transfer illusion
3. 学会等名 Fechner Day 2023: The 39th Annual Meeting for the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nakajima, Y., Remijn, G.B., Kamimura, Y., Kanafuka, K.
2. 発表標題 How is a temporal gap in a longer glide perceived if a longer and a shorter tone glide crossing one another are heard as two bouncing trajectories?
3. 学会等名 Fechner Day 2023: The 39th Annual Meeting for the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takeuchi A., Remijn, G.B.
2. 発表標題 The relation between pupil dilation and positive affective feelings induced by ASMR-sounds, music, and other sounds
3. 学会等名 ICMPC17-APSCOM7 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 久住 香奈, 蓮尾 絵美, Gerard B. Remijn
2. 発表標題 音の周波数変化が聴覚の数的判断に与える影響
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Remijn, G.B., Takahashi, R., Ueda, K.
2. 発表標題 Summary statistics for music scale tones: the influence of the interstimulus interval between the stimulus set and the comparison tone.
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nakajima, Y., & Hasuo, E.
2. 発表標題 Inevitable time warp in music perception. Symposium "Psychological times (Organizer: Simon Grondin)"
3. 学会等名 the 39th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (Fechner Day 2023), Assisi (Italy) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nakajima, Y., Hasuo, E., Matsuda-Imai, M., & Tomimatsu, E.
2. 発表標題 Perceptual contrast between two adjacent short time intervals marked by tone
3. 学会等名 17th International Conference of Music Perception and Cognition (ICMPC17-APSCOM7), Tokyo (Japan) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hasuo, E.
2. 発表標題 Does beat influence rhythm perception?
3. 学会等名 The 63rd Perceptual Frontier Seminar: 10th Anniversary Seminar, Fukuoka (Japan) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hasuo, E., Masuda, Y., Arao, H., Ono, K., & Matani, A.
2. 発表標題 Effects of beat on the occurrence of temporal assimilation: Behavioral and EEG experiments
3. 学会等名 The 60th Perceptual Frontier Seminar: Time and Rhythm, Fukuoka (Japan)
4. 発表年 2023年

1 . 発表者名 Hasegawa, J., Ueda, K., Takeichi, H., Remijn, G., & Hasuo, E.
2 . 発表標題 Selective listening in checkerboard and interrupted speech stimuli with two talkers
3 . 学会等名 The 60th Perceptual Frontier Seminar: Time and Rhythm, Fukuoka (Japan)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Kusumi, K., Hasuo, E., & Remijn, G.
2 . 発表標題 The effect of frequency modulation on auditory numerosity judgments
3 . 学会等名 The 60th Perceptual Frontier Seminar: Time and Rhythm, Fukuoka (Japan)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Hasuo, E., Ono, K., & Matani, A.
2 . 発表標題 Electroencephalographic study on bistable rhythm
3 . 学会等名 17th International Conference of Music Perception and Cognition (ICMPC17-APSCOM7), Tokyo (Japan) (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Hasuo, E., Masuda, Y., & Arai, H.
2 . 発表標題 Does asymmetrical temporal assimilation occur in music?
3 . 学会等名 17th International Conference of Music Perception and Cognition (ICMPC17-APSCOM7), Tokyo (Japan) (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1. 発表者名 Nakajima, Y. & Hasuo, E.
2. 発表標題 Discrepancies between physical and perceived inter-onset time intervals that cannot be ignored in music perception studies
3. 学会等名 17th International Conference of Music Perception and Cognition (ICMPC17-APSCOM7), Tokyo (Japan) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 光藤崇子, 田村俊介, 高井善史, 中西翔一郎, 上野雄文, 鬼塚俊明, 平野羊嗣
2. 発表標題 統合失調症における自発 振動の認知的制御不全 : 聴覚注意課題による検討
3. 学会等名 第53回日本臨床神経生理学会学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takako Mitsudo, Shunsuke Tamura, Yoshifumi Takai, Shoichiro Nakanishi, Takefumi Ueno, Toshiaki Onitsuka, Yoji Hirano
2. 発表標題 Auditory selective attention revealed an aberrant endogenous gamma-band synchronization in patients with schizophrenia
3. 学会等名 The 63rd Perceptual Frontier Seminar: 10th Anniversary Seminar
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田村俊介, 高井善史, 光藤崇子, 中西翔一郎, 北島和俊, 三笥良, 鬼塚俊明, 平野羊嗣
2. 発表標題 統合失調症における音声誘発ガンマオシレーションの異常
3. 学会等名 第45回日本生物学的精神医学会年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 光藤崇子, 田村俊介, 高井善文, 中西翔一郎, 上野雄文, 鬼塚俊明, 平野羊嗣
2. 発表標題 統合失調症における内因性ガンマオシレーションの適応的な調整不全：聴覚注意課題による検討
3. 学会等名 第45回日本生物学的精神医学会年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 三笠良, 田村俊介, 光藤崇子, 成儒彬, 松本航, 山口高弘, 向野隆彦, 重藤寛史, 平野羊嗣, 平野昭吾, 磯部紀子, 中尾智博
2. 発表標題 若年性ミオクロニーてんかんにおける聴性、および体性感覚性定常状態反応の異常
3. 学会等名 第56回日本てんかん学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Alexandra WOLF, Shunsuke TAMURA, Takako MITSUDO, Kazuo UEDA, Yoji HIRANO
2. 発表標題 Revealing Gaze Impairment among Clinical Populations Using Eye-Tracking Technology
3. 学会等名 30 June 2023, Miyazaki University, Miyazaki, Japan (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Alexandra Wolf, Shunsuke Tamura, Takako Mitsudo, Kazuo Ueda, Yoji Hirano, Mihoko Otake-Matsuura
2. 発表標題 INFORMATION PROCESSING STRATEGY AMONG CLINICAL POPULATIONS IN A DECISION-MAKING TASK: AN EYE MOVEMENT STUDY
3. 学会等名 2-9 August 2023, Digital Economy Promotion Agency (DEPA), Bangkok, Thailand (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, and Kohei Wakamiya
2. 発表標題 Auditory grouping facilitates understanding interrupted mosaic speech stimuli
3. 学会等名 Fechner Day 2022: The 38th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Linh Doan, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, and Gerard B. Remijn
2. 発表標題 Checkerboard speech: A trough in the intelligibility curves
3. 学会等名 Fechner Day 2022: The 38th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Geng-Yan Jhang, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, and Gerard B. Remijn
2. 発表標題 Auditory stream segregation for complex tones with switching frequency bands
3. 学会等名 Fechner Day 2022: The 38th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Alexandra Wolf, Shunsuke Tamura, Takako Mitsudo, Kazuo Ueda, and Yoji Hirano
2. 発表標題 Information processing abnormalities among patients with schizophrenia in a decision-making task
3. 学会等名 Fechner Day 2022: The 38th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1 . 発表者名 Hiroshige Takeichi, Kazuo Ueda, Takako Mitsudo, Alexandra Wolf, and Yoji Hirano
2 . 発表標題 Magnetoencephalography of processing mosaic and checkerboard speech
3 . 学会等名 Fechner Day 2022: The 38th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, and Kohei Wakamiya
2 . 発表標題 Auditory grouping is necessary to understand interrupted mosaic speech stimuli
3 . 学会等名 Acoustical Society of America, P&P Virtual Journal Club ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Kimiko Negi, Gerard B. Remijn, Yoshitaka Nakajima, and Kazuo Ueda,
2 . 発表標題 Analysis of enhanced speech quality using correspondence analysis
3 . 学会等名 ASJ Auditory Research Meeting ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Hiroshige Takeichi, Kazuo Ueda, Takako Mitsudo, Alexandra Wolf, and Yoji Hirano,
2 . 発表標題 Magnetoencephalography elucidates processing mosaic and checkerboard speech
3 . 学会等名 ASJ Auditory Research Meeting ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1. 発表者名 Koutaro Munechika, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, and Gerard B. Remijn
2. 発表標題 Phonemic restoration and energetic masking with checkerboard speech stimuli
3. 学会等名 ASJ Auditory Research Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Linh Doan, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, and Gerard B. Remijn
2. 発表標題 A trough in intelligibility curves for checkerboard speech stimuli with four and eight frequency bands
3. 学会等名 ASJ Auditory Research Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Geng-Yan Jhang, Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, and Gerard B. Remijn
2. 発表標題 Auditory stream segregation for complex tones with switching frequency bands: Rivaling factors for segregation
3. 学会等名 ASJ Auditory Research Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Remijn, G.B., Nakajima, Y.
2. 発表標題 Illusory auditory event formation in different frequency regions
3. 学会等名 ASJ Auditory Research Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nakajima, Y., Remijn, G.B.
2. 発表標題 On the illusory continuity in the gap transfer illusion: A few auditory demonstrations
3. 学会等名 ASJ Auditory Research Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wolf, A.
2. 発表標題 The Potential of Gaze Parameters in the Diagnosis of Mild Cognitive Impairment
3. 学会等名 First International Workshop on Complex Systems Science & Health Neuroscience, 28 November, Kyoto, Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wolf A.
2. 発表標題 Eye Movement Abnormalities in Older Adults With and Without Mild Cognitive Impairment.
3. 学会等名 A*STAR CFAR / RIKEN-AIP Workshop, 16 December, Hybrid event, Singapore (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wolf, A., Tamura, S., Mitsudo, T., Ueda, K., & Hirano, Y.
2. 発表標題 A preliminary study on evaluative responses toward naturalistic food images among patients with schizophrenia and healthy controls
3. 学会等名 ECVP2022, 28 August - 01 September 2022, Nijmegen, Netherlands (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi
2. 発表標題 Regaining intelligibility of interrupted mosaic speech by stretching
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Ueda, Hiroshige Takeichi, Kohei Wakamiya, and Gerard B. Remijn
2. 発表標題 Auditory grouping by stretching: Regaining intelligibility of interrupted mosaic speech stimuli
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ドアン リン, 上田和夫, 竹市博臣, ジェラード B. レメイン
2. 発表標題 市松音声の了解度：周波数帯域数と区間長の効果
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 棟近 光太郎, 上田和夫, 竹市博臣, ジェラード B. レメイン
2. 発表標題 市松音声のエネルギー・マスキング
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本将史, 上田和夫, 竹市博臣, 若宮幸平, ジェラード B. レメイン
2. 発表標題 断続伸張モザイク音声: 時間分解精度と断続が了解度におよぼす効果の分離
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川口智史, ジェラード B. レメイン
2. 発表標題 英語の第二言語習得に母語の韻律が与える影響: 日本語, 中国語母語話者間の比較検討
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上田和夫
2. 発表標題 劣化音声の了解度回復
3. 学会等名 五感応用デバイス研究開発センター セミナー (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 三笥良, 田村俊介, 成儒彬, 光藤崇子, 高井善文, 中村一太, 中尾 智博, 鬼塚 俊明, 平野 羊嗣
2. 発表標題 統合失調症者における自発-聴覚関連課題間の 帯域神経振動異常
3. 学会等名 第118回 日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1 . 発表者名 Kazuo UEDA, Riina KAWAKAMI, Hiroshige TAKEICHI
2 . 発表標題 Checkerboard speech
3 . 学会等名 The 52nd Perceptual Frontier Seminar: Non-Invasive Exploration of the Brain with Visual, Tactile, and Auditory Stimuli ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Alexandra Wolf, Kazuo Ueda, and Yoji Hirano
2 . 発表標題 Eye-Movement Abnormalities among Patients with Schizophrenia
3 . 学会等名 the 43rd European Conference on Visual Perception (ECVP 2021) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Nakajima, Y., Onaka, T., Oyama, A., Ueda, K., and Remijn, G. B.
2 . 発表標題 Temporal and frequency resolution needed for auditory communication: Comparison between young and senior listeners utilizing mosaic speech
3 . 学会等名 Fechner Day 2021: The 57th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Zhang, Y., Nakajima, Y., Ueda, K., and Remijn, G. B.
2 . 発表標題 Acoustic correlates of English consonant-vowel-consonant (CVC) words obtained with multivariate analysis
3 . 学会等名 Fechner Day 2021: The 57th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 Wolf, A., Ueda, K., and Hirano, Y.
2. 発表標題 Eye movement abnormalities among patients with schizophrenia
3. 学会等名 Fechner Day 2021: The 57th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Ueda, Riina Kawakami, Hiroshige Takeichi
2. 発表標題 Checkerboard Speech: A New Experimental Paradigm for Investigating Speech Perception
3. 学会等名 Fechner Day 2021: The 57th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo UEDA, Riina KAWAKAMI, and Hiroshige TAKEICHI
2. 発表標題 Combined Effects of Temporal and Spectral Segmentation on Intelligibility of Degraded Speech
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上田和夫, 川上里以菜, 竹市博臣
2. 発表標題 市松音声と断続音声の知覚
3. 学会等名 日本音響学会音声コミュニケーション研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上田和夫, 竹市博臣
2. 発表標題 市松音声と断続音声の知覚: 周波数・時間領域における知覚体制化
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川上 里以菜, 上田 和夫, 竹市 博臣
2. 発表標題 市松音声の知覚: 聴覚体制化における断続音声との違い
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 棟近光太郎, 上田和夫, 松尾行雄, 竹市博臣, Gerard B. Remijn
2. 発表標題 局部時間反転キメラ音声の了解度に影響を及ぼす周波数帯: 実験および誤答分析
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 唐挺山、上田和夫、Gerard, B. Remijn, 竹市博臣
2. 発表標題 時間順序をランダム化したモザイク音声の了解度: 中国語と日本語の比較
3. 学会等名 日本音響学会音声コミュニケーション研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 棟近光太郎, 上田 和夫, 竹市 博臣, Gerard B. Remijn
2. 発表標題 帯域雑音と交替する断続音声の了解度
3. 学会等名 日本音響学会春季研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ドアン リン, 上田 和夫, 竹市 博臣, レメイン ジェラード
2. 発表標題 市松音声: 了解度に見られる区間長の特異性
3. 学会等名 日本音響学会春季研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 江口 輝, 上田 和夫, レメイン ジェラード B., 中島 祥好
2. 発表標題 時間分解精度の操作がモザイク音声の明瞭度に与える影響: 日本語と中国語の比較
3. 学会等名 日本音響学会秋季研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平野羊嗣
2. 発表標題 精神現象の可視化: ガンマオシレーションを軸にした統合失調症の病態解明と治療
3. 学会等名 第42回日本生物学的精神医学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Zhang, Y., Nakajima, Y., Ueda, K. Remijn, G.B.
2. 発表標題 How the Acoustic Correlates of English Obstruents Appear in Multivariate Analysis
3. 学会等名 The 2021 Asian Conference on Language, Tokyo, Japan (on-line). (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Lin, M., Nakajima, Y., Liu, S., Ueda, K., Remijn, G.B.
2. 発表標題 The Influence of Comma- and Period-pause Duration on the Listener 's Impression of Speeches Made in Mandarin Chinese
3. 学会等名 The 2021 Asian Conference on Language, Tokyo, Japan (on-line). (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江口 輝, 上田 和夫, レメイン ジェラード B., 中島 祥好
2. 発表標題 局部時間ランダムイズ・モザイク音声の明瞭度
3. 学会等名 日本音響学会春季研究発表会 (コロナウィルス感染防止のため開催が中止されたが, 発表したと見なされることを学会が公表)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 尾中達郎, 中島祥好, 上田和夫, ジェラード B. レメイン
2. 発表標題 聴力検査の利用に向けたモザイク音声の明瞭度について
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hikaru EGUCHI, Kazuo UEDA, Gerard B. REMIJN, Yoshitaka NAKAJIMA
2. 発表標題 Locally time-scrambled mosaic speech
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下英吾, 中島祥好, 上田和夫, ジェラード B. レメイン
2. 発表標題 絶対音感保持者及び非保持者における楽譜・音名・ピッチ間の視聴覚ストループ課題
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八木 美紀, 中島 祥好, 上田 和夫, ジェラード B. レメイン
2. 発表標題 楽譜, ピアノ音, 文字を用いた視聴覚ストループ効果について
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Ueda, Valter Ciocca, Gerard B. Remijn, and Yoshitaka Nakajima
2. 発表標題 Perceptual restoration of interrupted locally time-reversed speech: Effects of noise levels and segment duration
3. 学会等名 Fechner Day 2019: the 35th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazuo Ueda, Valter Ciocca, Gerard B. Remijn, and Yoshitaka Nakajima
2 . 発表標題 Perceptual restoration of interrupted locally time-reversed speech: Effects of noise levels
3 . 学会等名 The 83rd Annual Convention of the Japanese Psychological Association
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hirano Y, Sato J, Hirakawa N, Kanba S, Onitsuka T
2 . 発表標題 Investigation of subcortical volume abnormalities in patients with schizophrenia and bipolar disorder
3 . 学会等名 The 21st Annual ISBD Conference on Bipolar Disorders and Depression ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hirano Y
2 . 発表標題 Sensory processing dysfunction and abnormal neural oscillation in schizophrenia
3 . 学会等名 UNSW Sydney Psychiatry Lecture ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hirano Y
2 . 発表標題 Abnormal Cortical Activities in Schizophrenia -Potential Novel Targets for Clinical Applications-
3 . 学会等名 Asia Pacific Society for Biology and Medical Sciences 2019 Annual Meeting ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirano Y
2. 発表標題 Spontaneous Gamma Activity in Schizophrenia
3. 学会等名 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirano Y, Oribe N, del Re E, Kanba S, Onitsuka T, Levin M, McCarley RW, Spencer KM
2. 発表標題 Spontaneous and Evoked Auditory Gamma Abnormalities in First-Episode Schizophrenia: A Longitudinal Study
3. 学会等名 The ACNP Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野羊嗣, 神庭重信, 加藤忠史
2. 発表標題 日本精神神経学会PCN編集委員会の活動について
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野羊嗣
2. 発表標題 プログレスレポート
3. 学会等名 第41回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野羊嗣
2. 発表標題 Sensory Processing and Neural Oscillation Deficits in Schizophrenia: Towards Asian Consortium on EEG studies in Psychosis (シンポジウム23)
3. 学会等名 第41回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野羊嗣
2. 発表標題 急性期統合失調症の病態と治療
3. 学会等名 精神身体合併症研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 原口 雅浩, 上田和夫, 他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 サイエンス社	5. 総ページ数 296
3. 書名 知覚と感覚の心理学	

1. 著者名 吉澤 達也, 上田和夫, 他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 感覚知覚の心理学	

1. 著者名 子安 増生、丹野 義彦、箱田 裕司（監修）、上田和夫 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 1002
3. 書名 有斐閣 現代心理学辞典	

1. 著者名 箱田裕司 編，光藤宏行，上田和夫，河邊隆寛，河原純一郎，広瀬雄彦，改田明子，中村奈良江，中村國則，小松佐穂子，岩原昭彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 遠見書房	5. 総ページ数 192
3. 書名 知覚・認知心理学	

1. 著者名 三浦 佳世，河原 純一郎 編著，上田和夫，他 50 名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 美しさと魅力の心理	

1. 著者名 生物音響学会編，上田和夫，松尾行雄，他 132 名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 464
3. 書名 生き物と音の事典	

〔産業財産権〕

[ その他 ]

Perceptual restoration of degraded speech...  
<https://www.kyushu-u.ac.jp/en/research/information/artdesign/design/design51>  
 劣化音声の知覚的修復：音声の断片をつなぎ合わせて意味のあるまとまりにする聴覚の働きとその限界  
<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/research/information/artdesign/design/design51>  
 Ueda Laboratory  
<https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/research.html>  
 上田研究室  
[https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/research\\_j.html](https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/research_j.html)  
 九州大学研究者情報  
<https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K002356/research.html>  
 Kazuo Ueda  
<https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K002356/english.html>  
 Ueda Laboratory  
<https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/research.html>  
 Ueda Laboratory, Gallery  
<https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/gallery.html>  
 上田研究室  
[https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/research\\_j.html](https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/research_j.html)  
 上田研究室 ギャラリー  
[https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/gallery\\_j.html](https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ueda/gallery_j.html)  
<https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K002356/english.html>  
<https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K002356/index.html>  
 Ueda Laboratory

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松尾 行雄  (Matsuo Ikuo)  (40323117)	東北学院大学・情報学部・教授    (31302)	
研究分担者	Remijn Gerard B.  (Remijn Gerard B.)  (40467098)	九州大学・芸術工学研究院・准教授    (17102)	
研究分担者	竹市 博臣  (Takeichi Hiroshige)  (60242020)	国立研究開発法人理化学研究所・情報統合本部・専任技師    (82401)	
研究分担者	光藤 崇子  (Mitsudo Takako)  (70423522)	独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター（臨床研究部）・臨床研究部・非常勤研究員    (87204)	
研究分担者	Wolf Alexandra  (Wolf Alexandra)  (70936955)	国立研究開発法人理化学研究所・革新知能統合研究センター・基礎科学特別研究員    (82401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平野 羊嗣  (Hirano Yoji)  (90567497)	宮崎大学・医学部・准教授    (17601)	
研究分担者	蓮尾 絵美  (Hasuo Emi)  (60725969)	九州大学・芸術工学研究院・助教    (17102)	
研究分担者	中島 祥好  (Nakajima Yoshitaka)  (90127267)	九州大学・芸術工学研究院・教授    (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 ASJ Auditory Research Meeting	開催年 2022年～2022年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
カナダ	The University of British Columbia			
米国	Harvard Medical School			
ドイツ	Technische Universitaet Darmstadt			